

## 平成 25 年度第 2 学期終業式 校長式辞

H25. 12. 24 (火) 9:10~  
体育館

おはようございます。

今日は、2学期をしめくくる日となりました。みなさんにとって、進歩や成長が実感できる学期となりましたか？

——反省すべき点があれば、改善に向け、今から一つ一つ小さな努力を積み重ねていきましょう。

今年一年を振り返る時期でもあります。

——<人生において大切なことは、「来年、やりたいことがあるか？」だと思う。言い方を変えれば「今年、やり残したことがある」ということが、生きる力になるのである。>これは、作詞家であり、AKB48 総合プロデューサーの秋元康（あきもと・やすし）さんの言葉です。みなさんは、今年、何をやり残しましたか？

——やり残したことがあれば、是非とも来年、やってみましょう。

今学期、そして今年一年、みなさんのことを何よりも大事に思い、熱心に御指導くださいました先生方に、この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

さて、10月の文化講演会では、講師の宇宙飛行士、山崎直子さんから、多くの励ましの言葉をいただくことができました。みなさんの感想文でも感動の声が寄せられました。山崎さんを講師に招いてよかったと思いました。

We are behind you. ——

これは、山崎さんのお話に出てきた言葉です。

「私たちは、あなたがたのうしろにいます。」と訳せますが、「あなたがたを陰で支えています。」という意味合いです。山崎さんたちクルーが打ち上げのシャトルに乗り込むため、アストロ・バンに乗って出発する際、見送ってくれたNASAの管制官の部屋の壁に掲げられていた言葉だそうです。

「ミッションが成功したのも、日夜、こうしたたくさんの人たちが支えてくれたおかげだと感謝しています。また、日本の関係者の応援も力になりました。」と山崎さんはおっしゃっていました。

山崎さんは多くの人の支援ということについて、著書の中でこう述べています。

「宇宙で仕事をするのは、危険が伴います。しかし、少しでも危険をなくし、安全を確保するために、宇宙に携わるすべての人が心を砕き、努力しています。そして訓練でも、危険から身を守る方法をたくさん教えてもらいました。ですから私は出発するときには、どんなことがあってもだいじょうぶだという気持ちでした。そして宇宙では、何

があろうとも頑張るという覚悟を決めていました。その決意を支えてくれたのは、宇宙にかかわるたくさんの人たちの支援でした。宇宙飛行士は一人で宇宙に行けるわけではありません。いろいろな人たちが仕事を支え、見守ってくれています。そういうたくさんの人たちの努力があって初めて、私たちも良い仕事ができるのです。私はそういう人たちの気持ちとともに宇宙に行きました。特に私の家族、夫と娘はいちばんの私の心の支えになりました。」と。

山崎さんはミッションを振り返って、著書の中でこう述べています。

「私は、宇宙から地球を見て俳句を作りました。『瑠璃色の 地球も花も 宇宙の子』という句です。・・・地球も宇宙のなかではたったひとつの小さな星です。しかも、ものすごく美しい。瑠璃色に輝いています。本当にかげがえのない星です。そしてここにすんでいる一人一人が同じようにかげがえのない命です。花にもいろんな花があり、どれもそれぞれに美しく命を輝かせています。そして花も人もみんなが、だれかに支えられ、助けられて生きています。そして同時にだれかを助けているのです。自分一人だけで生きていくことはできません。それが宇宙のおきて、宇宙のこどもの宿命なのだと思います。」と。

山崎さんは、春女生に「われら宇宙の子」というメッセージを残してくださいました。直筆の色紙が図書室と事務室前のケースの中に飾ってありますので、ご覧ください。

次の話題に移りましょう。

またイチロー選手のことと思わないで、聴いてくださいね。

私の敬愛するイチロー選手は、6年前から、オフシーズンにNHKの密着取材を受けています。「プロフェッショナル～仕事の流儀」の番組制作のためですが、今年も、12月に番組が放送されました。あらましを紹介しましょう。

タイ・カップ、ピート・ローズに続く史上3人目の4千本安打の快挙は、いかにして成し遂げられたのか。その陰には、どのような苦悩や葛藤があったのか。重圧に向き合うための心の在り方や類いまれなバッティング技術、そして今シーズン味わった悔しい思いなど語りました。

今回のインタビューでは、2つの名言、珠玉（しゅぎよく）の言葉が出てきました。

「失敗と挫折を体に刻みこむ」という言葉、そして「遥（はる）か理想の道に近づくのに近道はない」という言葉です。

一つ目の「失敗と挫折を体に刻みこむ」についてです。「失敗と屈辱を心に刻み込む」とも言い換えていました。

「4000本安打の裏には8000本の失敗があった。4000本安打の後に先発からはずれ、勝ち試合に代打で出て、最後の打者として打ち取られる屈辱を味わった。監督に「出るか」と聞かれて、「ノー」と言うこともできたが、そう言う自分がいやで「イエス」と

言い、代打で出て、打ち取られる屈辱を味わった」と。

二つ目の「遥か理想の道に近づくのに近道はない」についてです。

「22年やってきて、トータルで考えはっきり言えることは近道はないということ。一番の理想に近づくのは遠回りをするという。結局は遠回りが近道なのだと思う」と。

次に、重圧との闘いについて、「強靱な精神力」を挙げられたイチロー選手は、「弱い自分に向き合おうとすると強くなるというならそうかもしれない」と述べています。

「今年のように精神的に不安定な状態だと、不断続けていることを放棄したくなる。でも、それをすると僕を支えてきた自分が崩壊すると思うので、そこだけは続けてきた。それを放棄すると、僕の顔を真面目に見てきてくれた人たちを裏切ることになるので、それはがんばり続けた。これは努力ではないかと思う」と述べています。

インタビューの3日前に40歳の誕生日を迎えた彼は、最後に胸に秘めた新たな決意を明かしました。

「人間はストレスをためることが一番辛いから、年だと言ってしまうと楽。自分はもう年だからと決めることが楽だから。自分は年を経ることによって出てくる風味を楽しもうと思っている。年を経ることを認めつつ前へ進むことがよいのではないかと。来シーズンは手ごたえを感じている。僕がやれること、僕にしかやれないこと、他の人がやれないことを殺しながらやってきたのが2013年のシーズン。2014年のシーズンはやはり自分の持っている技術を生かしてやっていきたい。生かしてやっていくしかない」と。

また、「自分にしかできない技術を取り戻すというか、進むと言うか、戻ってきている。今まで4000本のヒットを打って、良いことも味わったが、もっとはるかに苦しいことがあった。まだやれることがあるからというより、まだ苦しみが足りないということ。何かを達成したからやめるというのではなく、苦しみが十分でないということ。まだ苦しめるという気がする。まだ苦しめるということは、やれることがまだあるということ」と来シーズンに向けての決意を語っていました。

イチロー選手の素顔をよく知るヤンキースの同僚選手はこう述べています。

「イチローほど準備にこだわる選手を見たことがない」と。

ヤンキースのチームスタッフ（通訳兼トレーナーのアレンターナー氏）はこう述べています。

「今シーズンの最後の最後まで、イチローさんはいつでも試合に出られるように準備していた。他のベテラン選手はユニフォームも着ず、バットの素振りもしなかったのに。最後の試合で（延長）14回のときでも、少しでも可能性があるとするれば、最後の最後まで素振りを続けていた。あれがイチローさん。何があっても準備している。だから4000本（安打）という数字があるのだと思う」と。

今回のTV番組を視聴し、イチロー選手の類いまれな「強靱な精神力」に圧倒されま

した。そして、少しでも見習えるよう、彼をお手本に努力していきたいと思いました。

以前、みなさんに「イチロー選手は 50 才まで現役を貫けるのではないかと期待している」とお話ししましたが、今回の番組を見て、彼なら本当に実現してしまうのではないかと思います。次はどんな名言、珠玉の言葉が出てくるか、今から一年後の番組を楽しみにしています。

次の話題です。

2 年生、67 期生の修学旅行に引率でまいりました。「これほど集中して話を聞いてもらえるのは久しぶりです。不断しない話までしてしまいました。みなさん本当にありがとうございます。」とバスガイドさんたちから感謝された春女生。2 日目の夜、宿泊先のホテルで、バスガイド・ドライバーさん達のライブ演奏というサプライズがあり、皆大喜びしましたね。沖縄の地で、抜群の集中力と人を思いやる優しい気持ちを発揮し、絶賛された春女生。昨年に引き続き、大変誇らしく思いました。これも春女の伝統と呼べますね。

3 年生、66 期生は、今、「進路指導における春女革命」とも呼べる変革に臨んでいます。一般入試に挑戦する生徒が例年と比べ、大幅に増加したことを指しています。ここ 2、3 年、本校で進めてきた「安（あん）・近（きん）・短（たん）」からの脱却、指定校推薦・AO から一般受験への指導の転換に、66 期生が乗ってくれた結果であり、好ましいことと思っています。

それだけに、これが成功するかどうかは、本校にとっても大変重要な意味を持ちます。「チーム春女」として、進路決定者の未決定者へのサポートが必要です。励ましの言葉をかけ続ける、あるいは 4 月からを見据え一緒に勉強し続けることも大事ですが、学びの環境を悪くしないことが最大のサポートになります。日々の学校生活の中でさりげない気遣いや、思いやりの心を見せてください。

これから勝負するみなさんへ、全国の大多数の現役生はこれからの正念場です。高い目標を達成するためには、それ相応の苦しさを乗り越えなければなりません。目標に向かって、あきらめず、最後の一瞬まで努力を積み重ね、栄冠を手にしてください。まずは 1 月のセンター試験で実力が発揮できるよう、体調を整え、最善を尽くしてください。楽しみは後にとっておきましょう。「最後に笑う者が一番よく笑う」のことわざが真実であることを証明してくれるのは、あなたがた一人一人です。

——We are behind you.

最後になりますが、明日からの 13 日間の冬休み、健康に留意し、学習と部活動をベースにした規則正しい生活を送りましょう。次は 1 月 7 日、元気なみなさんの姿を見られるのを楽しみにしています。